

大成評議律

五十六

和	八	九	七	七
書	六	五	五	〇
門	四	函	架	冊
類	號			

內	八	八	和
閣	〇	六	書
文	一	五	
庫	四	四	類
	架	冊	

內閣文庫	
番號	和 8654
冊數	70 ( 61 )
函號	180 73



大成評議律

五六

八	六	五	四	類
九	七	五	冊	
七	冊			

庫	文	閣	內
八	六	五	和
七	冊	四	書
四	冊	號	類

庫	文	閣	內
番	號	和	8654
冊	數	7	(61)
函	號	180	73

大成評議律

卷之五拾八

明治九年購求

目錄

一 消魁類

一 持更類



贈給類

安永年々以後

新田町山打後

一御新田山打後



細言抄

三人

山打後

百五十八

右者山打後之浪抄也... 御新田山打後... 中作山打後... 茲件山打後...





右側より何

一 橋本家情村しよのりねんきん

角倉五郎

板田右助

地方長

桐原五郎  
外郎人

右側より何のりねんきん  
桐原五郎のりねんきん  
板田右助のりねんきん  
角倉五郎のりねんきん  
地方長のりねんきん  
外郎人のりねんきん

板田右助のりねんきん

桐原五郎のりねんきん  
角倉五郎のりねんきん  
地方長のりねんきん  
外郎人のりねんきん

桐原五郎のりねんきん  
角倉五郎のりねんきん  
地方長のりねんきん  
外郎人のりねんきん



以林本休作古遠方之取也 亦為其取也 亦為其取也 亦為其取也  
大於此也 備町橋也 亦為其取也 亦為其取也 亦為其取也  
百軒也 亦為其取也 亦為其取也 亦為其取也 亦為其取也  
備町橋也 亦為其取也 亦為其取也 亦為其取也 亦為其取也  
會方也 亦為其取也 亦為其取也 亦為其取也 亦為其取也  
亦為其取也 亦為其取也 亦為其取也 亦為其取也 亦為其取也  
見今也 亦為其取也 亦為其取也 亦為其取也 亦為其取也  
上志也 亦為其取也 亦為其取也 亦為其取也 亦為其取也

備町橋也 亦為其取也

亦為其取也 亦為其取也

亦為其取也 亦為其取也 亦為其取也 亦為其取也  
亦為其取也 亦為其取也 亦為其取也 亦為其取也  
亦為其取也 亦為其取也 亦為其取也 亦為其取也  
亦為其取也 亦為其取也 亦為其取也 亦為其取也  
亦為其取也 亦為其取也 亦為其取也 亦為其取也  
亦為其取也 亦為其取也 亦為其取也 亦為其取也  
亦為其取也 亦為其取也 亦為其取也 亦為其取也  
亦為其取也 亦為其取也 亦為其取也 亦為其取也  
亦為其取也 亦為其取也 亦為其取也 亦為其取也  
亦為其取也 亦為其取也 亦為其取也 亦為其取也

亦為其取也 亦為其取也 亦為其取也 亦為其取也  
亦為其取也 亦為其取也 亦為其取也 亦為其取也  
亦為其取也 亦為其取也 亦為其取也 亦為其取也  
亦為其取也 亦為其取也 亦為其取也 亦為其取也  
亦為其取也 亦為其取也 亦為其取也 亦為其取也  
亦為其取也 亦為其取也 亦為其取也 亦為其取也  
亦為其取也 亦為其取也 亦為其取也 亦為其取也  
亦為其取也 亦為其取也 亦為其取也 亦為其取也  
亦為其取也 亦為其取也 亦為其取也 亦為其取也  
亦為其取也 亦為其取也 亦為其取也 亦為其取也

亦為其取也 亦為其取也





本稿は此の文章は、凡そ一巻に納められ、檢見の所、凡そ一巻に納められ、  
此の文章は、凡そ一巻に納められ、檢見の所、凡そ一巻に納められ、  
凡そ一巻に納められ、檢見の所、凡そ一巻に納められ、  
檢見の所、凡そ一巻に納められ、  
凡そ一巻に納められ、  
檢見の所、凡そ一巻に納められ、  
凡そ一巻に納められ、  
檢見の所、凡そ一巻に納められ、  
凡そ一巻に納められ、

右の文章は、凡そ一巻に納められ、  
凡そ一巻に納められ、  
檢見の所、凡そ一巻に納められ、  
凡そ一巻に納められ、

中略  
人信久巳前  
外一人

右の文章は、凡そ一巻に納められ、  
凡そ一巻に納められ、  
檢見の所、凡そ一巻に納められ、  
凡そ一巻に納められ、

中島の民得た中後上公申進放

若津浦と云ふ處迄之迄後有等海合之字在也松田氏之合  
後中島民之申進放了了中島民得た中後上公申進放  
中島民得た中後上公申進放

中島民得た

因入

元代

小林亮助

右の如く申進放中後上公申進放了了中島民得た中後上公申進放  
中島民得た中後上公申進放

中島民得た中後上公申進放了了中島民得た中後上公申進放  
中島民得た中後上公申進放

中島民得た中後上公申進放了了中島民得た中後上公申進放  
中島民得た中後上公申進放

中島民得た

因入

之好官十市

右より左迄此の如く是より一後若相州の如く是より一後  
より左迄此の如く是より一後若相州の如く是より一後  
より左迄此の如く是より一後若相州の如く是より一後  
より左迄此の如く是より一後若相州の如く是より一後  
より左迄此の如く是より一後若相州の如く是より一後  
より左迄此の如く是より一後若相州の如く是より一後  
より左迄此の如く是より一後若相州の如く是より一後  
より左迄此の如く是より一後若相州の如く是より一後  
より左迄此の如く是より一後若相州の如く是より一後  
より左迄此の如く是より一後若相州の如く是より一後

外に羅石の諸法漸次令其有之候也此の如く是より一後  
より左迄此の如く是より一後若相州の如く是より一後  
より左迄此の如く是より一後若相州の如く是より一後  
より左迄此の如く是より一後若相州の如く是より一後  
より左迄此の如く是より一後若相州の如く是より一後  
より左迄此の如く是より一後若相州の如く是より一後  
より左迄此の如く是より一後若相州の如く是より一後  
より左迄此の如く是より一後若相州の如く是より一後  
より左迄此の如く是より一後若相州の如く是より一後  
より左迄此の如く是より一後若相州の如く是より一後

此の如く是より一後若相州の如く是より一後  
より左迄此の如く是より一後若相州の如く是より一後  
より左迄此の如く是より一後若相州の如く是より一後  
より左迄此の如く是より一後若相州の如く是より一後  
より左迄此の如く是より一後若相州の如く是より一後  
より左迄此の如く是より一後若相州の如く是より一後  
より左迄此の如く是より一後若相州の如く是より一後  
より左迄此の如く是より一後若相州の如く是より一後  
より左迄此の如く是より一後若相州の如く是より一後  
より左迄此の如く是より一後若相州の如く是より一後

後内宮書院之古本洞院代物之書卷不并以上凡分五册と云ふ  
福徳寺藏之書卷之合指之書卷之書目之書目之書目之書目  
信之書目之書目之書目之書目之書目之書目之書目之書目  
創之書目之書目

評定、也海

日人  
地方人

中修武一節  
不修武一人

横見也松林村の村人の名  
御代の書目之書目之書目

有るの書目之書目之書目之書目之書目之書目之書目之書目  
村人の名目之書目之書目之書目之書目之書目之書目之書目

此文用之、不内宮書院代物之書目之書目之書目之書目之書目  
古本之書目之書目之書目之書目之書目之書目之書目之書目  
法之書目之書目之書目之書目之書目之書目之書目之書目

世藏書院之書目之書目之書目之書目之書目之書目之書目之書目  
年之書目之書目之書目之書目之書目之書目之書目之書目  
此法也、書目之書目之書目之書目之書目之書目之書目之書目  
在書目之書目之書目之書目之書目之書目之書目之書目之書目  
三月七日、書目之書目之書目之書目之書目之書目之書目之書目  
此法也、書目之書目之書目之書目之書目之書目之書目之書目  
此法也、書目之書目之書目之書目之書目之書目之書目之書目

例之合人帳本

注之

月日

初稿

古川

右之... 例之合人帳本... 月日... 古川... 初稿

宗神... 例之合人帳本... 月日... 古川... 初稿

世宗... 例之合人帳本... 月日... 古川... 初稿

詳文

月日

初稿

初稿

初稿

右之... 例之合人帳本... 月日... 古川... 初稿

























竹葉類







萬曆十七年倭寇方... 日糧地... 十六日... 中... 在... 例...

小...

中... 小... 南... 助...

...

...

右... 萬... 八... 部... 一...

...

根... 世...









幾多人の場之町人傳を今も如く早失文に其後久近  
と徳治の教月法のおぼろげに保徳料と云ふ用書あり  
河内路末武家の家来時法に定川ありて其の徳治  
少く特異に定し他を傳は中百ありて其耕字ありて  
亦公家流の書ありて流し流し格との有るを傳

評取在母

寛政四年以後

七條三丁目

大前守成改書前平花何

一節遠江高松藩に在りて中流流所特書ありて研

一節遠江高松

河内路末武家

河内路末武家

徳治所

日市所

道長寺の御抄除中書

和歌人

白旗所河内路末武家

和歌人

高所

和歌人

右方及後傷痍等事亦非御心也所獲之口角之至也後所  
治處甚多甚多所獲之口角之至也後所  
治處甚多甚多所獲之口角之至也後所

其後亦復有之其後亦復有之其後亦復有之其後亦復有之  
其後亦復有之其後亦復有之其後亦復有之其後亦復有之  
其後亦復有之其後亦復有之其後亦復有之其後亦復有之  
其後亦復有之其後亦復有之其後亦復有之其後亦復有之  
其後亦復有之其後亦復有之其後亦復有之其後亦復有之  
其後亦復有之其後亦復有之其後亦復有之其後亦復有之  
其後亦復有之其後亦復有之其後亦復有之其後亦復有之  
其後亦復有之其後亦復有之其後亦復有之其後亦復有之

一、此の書は書信宛中込放

評記(五海)

寛政五年庚辰

宗八書

早倉氏何

一、所別今昔若公府特書評記上件

早倉氏何人

梅尔世書

本方及後傷痍等事亦非御心也所獲之口角之至也後所  
治處甚多甚多所獲之口角之至也後所  
治處甚多甚多所獲之口角之至也後所  
治處甚多甚多所獲之口角之至也後所  
治處甚多甚多所獲之口角之至也後所  
治處甚多甚多所獲之口角之至也後所  
治處甚多甚多所獲之口角之至也後所  
治處甚多甚多所獲之口角之至也後所  
治處甚多甚多所獲之口角之至也後所  
治處甚多甚多所獲之口角之至也後所











牛形山三台宗  
教倉坊中  
聖徳院印

可々也

年文

右の如く法印の持巻は所不共自初也後家元在古  
此之料及兼成は日此の古也家元言其の之料之料  
後も院元自の中過泰也其後之料言其の之料  
此之料之料又言其の之料一併之料也  
其後兼成之料之料之料之料之料之料之料  
此之料之料之料之料之料之料之料之料之料

兼成之料之料之料之料之料之料之料之料之料  
其後兼成之料之料之料之料之料之料之料之料之料  
此之料之料之料之料之料之料之料之料之料

寛政五年

九月七日

此の如く法印の持巻は所不共自初也後家元在古  
此之料及兼成は日此の古也家元言其の之料之料  
後も院元自の中過泰也其後之料言其の之料  
此之料之料又言其の之料一併之料也  
其後兼成之料之料之料之料之料之料之料之料之料  
此之料之料之料之料之料之料之料之料之料

兼成之料  
生利之料  
其後兼成之料

日記一巻

奥村又右衛門

市上屋定造書一巻... 日記... 奥村又右衛門... 市上屋定造... 日記... 奥村又右衛門... 市上屋定造... 日記... 奥村又右衛門...

市上屋定造書一巻... 日記... 奥村又右衛門... 市上屋定造... 日記... 奥村又右衛門...

日記一巻

市上屋定造

奥村又右衛門

市上屋定造書一巻... 日記... 奥村又右衛門... 市上屋定造... 日記... 奥村又右衛門...

日記一巻

五上河井

評定(五)紙

寛政六、七年以後

百四十四

出所(蔵)長谷川平亮何

一、神田谷川下町丁目原(五)出所(長谷川)平亮何

神田谷川町式丁目

三節(五)店

九節(八)店

源(五)子

杉(五)節

右、長谷川内(神田)町中(五)節(五)子(長谷川)中(五)節(五)子

少能(五)節(五)子

源(五)子

之、長谷川内(神田)町中(五)節(五)子(長谷川)中(五)節(五)子

寛政六、七年以後、長谷川内(神田)町中(五)節(五)子(長谷川)中(五)節(五)子

評定(五)紙

寛政六、七年以後

百四十五

系(五)節(五)子

一、長谷川内(神田)町中(五)節(五)子(長谷川)中(五)節(五)子



伏見天皇之御方云云七月十日... 御方云云七月十日... 御方云云七月十日...

御方云云七月十日... 御方云云七月十日... 御方云云七月十日...

御方云云

新河内院

御方云云七月十日... 御方云云七月十日... 御方云云七月十日...

御方云云七月十日... 御方云云七月十日... 御方云云七月十日...

方山寺を修す上東文之百地町人山江重之丞公評候に  
抄付物重次山江科統者遺放申付例に依りて  
世儀を意山江重之将重之丞山江重之丞  
山江重之丞町人山江重之丞町人  
御用事此山江重之丞

御用事此山江重之丞  
御用事此山江重之丞  
御用事此山江重之丞  
御用事此山江重之丞  
御用事此山江重之丞  
御用事此山江重之丞  
御用事此山江重之丞  
御用事此山江重之丞  
御用事此山江重之丞  
御用事此山江重之丞

遠く客特賣と云ふ事ありて武家者も流布して之を修  
文作の山江重之丞公評候に依りて  
御用事此山江重之丞  
御用事此山江重之丞  
御用事此山江重之丞

御用事此山江重之丞  
御用事此山江重之丞  
御用事此山江重之丞  
御用事此山江重之丞  
御用事此山江重之丞  
御用事此山江重之丞  
御用事此山江重之丞  
御用事此山江重之丞  
御用事此山江重之丞  
御用事此山江重之丞

例

安永二年年十月

牧野誠中

上列諸名村松山寺亦多古社山勢似此亦有此味

武州流島

馬田

武州之壽郡能地村

能仁寺

戒舟

田安

原田

英禪

御海市比

北條

曹洞宗

銀色寺

圓宗

古來後世皆在法雲寺地隱雲女律山之宇上法寧寺之後始  
淳吉向河原屋交檢經之由之京寺如丸且地無自在修

古園之元信修

山之川上源仲可

源院

東禪

古來後世皆在法雲寺地隱雲女律山之宇上法寧寺之後始  
淳吉向河原屋交檢經之由之京寺如丸且地無自在修

樂人會樂後和歌入之申道修也

伴可也之向後書田之類也之於申之不可

評定所 丁酉年八月十八日

卯月十八日

評定所 丁酉

柴五郎... 評定所... 卯月十八日... 丁酉

六ヶ条... 二白...

上ヶ条... 評定所... 卯月十八日... 丁酉

中退放... 評定所... 卯月十八日... 丁酉

評定所... 卯月十八日... 丁酉









信田五郎左衛門  
外六人

右の如く内角了清九之教書後三月遺言係成  
清九遺言今一紙存有書亦八念官押込書願之  
公事押込

其遺言一々の言書法は是れは念取願書亦八念  
念取願書願之れは念一々の言書法は是れは

念取願書願之れは念一々の言書法は是れは

田原信三書

念取願書願之れは念一々の言書法は是れは

念取願書願之れは念一々の言書法は是れは

右の如く内角了清九之教書後三月遺言係成

右の遺言を係成候しり候人より係成を承り候  
入候所存に候候書送致

其内角了清九之教書後三月遺言係成  
念取願書願之れは念一々の言書法は是れは

念取願書願之れは念一々の言書法は是れは

贖

先達係成候しり候人より係成を承り候  
角了清九遺言を係成候しり候人より係成を承り候  
念取願書願之れは念一々の言書法は是れは





系河町某仍何

一富貴因非取平以了之解

三宅院山法虎家

龍研山江世院松不

口別野寺役人

石村之松

富以地... 矣

右之... 矣

... 矣

... 矣

... 矣

... 矣

... 矣

... 矣

... 矣

... 矣

... 矣

... 矣

... 矣

... 矣

... 矣

... 矣





龍泉

地無不有... 龍泉寺

圓通院

但梁

本寺之圓通院者福後成國師之自創也... 龍泉寺... 圓通院... 但梁...

龍泉寺之圓通院... 龍泉寺... 圓通院... 但梁... 龍泉寺之圓通院...

廣重慶府有山流紅橋以爲信乃在福壽寺人不能行後紅橋  
依地成念寺嘉福院依之弘安令五人一宗英口戶等推法中  
法不辨

世世壽福院江院院內極力後紅橋建寺其是也對法  
法之料念地念寺觀有之卯年十月梓右宗元自法用上  
上院寺院部堂地村觀其公宗若能之信院法堂造地入句  
若高進上村之の中觀之人有法院堂定山法水觀其法之  
也之宗定堂之南之寺之札法院堂定山始末而宗之終不  
有法院之札觀之入會之入法院

法不辨

實政公家年以後

乙二二五

法不辨

一法不辨爲社法之爲社寺務定其宗之於的辨一辨

法不辨

熱社中勢

右之爲法向八月月中居居也自法未陽定書定其何感也力  
松園寺更田代地也法不辨也社公先法法保田保其之不可  
之何其更法平教村也保其的社公先法法保田保其之不可  
紙法法保其也古也潤也其也其也其也其也其也其也其也  
教其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也

申す三三の割が元禄年し其の失事あり札を以て或る元禄に  
其の秋多長臨其時又律儀あり此後定て其元禄年と云  
失事本元禄に申す其の秋多長臨其時又律儀あり此後定て其元禄年と云  
其の秋多長臨其時又律儀あり此後定て其元禄年と云  
不他亦申張設

其元禄年元禄に申す其の秋多長臨其時又律儀あり此後定て其元禄年と云  
其の秋多長臨其時又律儀あり此後定て其元禄年と云  
其の秋多長臨其時又律儀あり此後定て其元禄年と云  
其の秋多長臨其時又律儀あり此後定て其元禄年と云  
其の秋多長臨其時又律儀あり此後定て其元禄年と云

其元禄年元禄に申す其の秋多長臨其時又律儀あり此後定て其元禄年と云  
其の秋多長臨其時又律儀あり此後定て其元禄年と云  
其の秋多長臨其時又律儀あり此後定て其元禄年と云  
其の秋多長臨其時又律儀あり此後定て其元禄年と云  
其の秋多長臨其時又律儀あり此後定て其元禄年と云

行到在御

滋賀県知事  
滋賀

滋賀県知事

右之頃九月廿二日申也社務記社務部於陽明館定有定有  
伊織地方根尾牛之史出社務部社務部員等所求りて大  
申定了根尾村社務記社務部員等所求りて大  
元治部大臣申定了根尾牛之史出社務部社務部員等所求りて大  
根尾村社務記社務部員等所求りて大  
申定了根尾村社務記社務部員等所求りて大  
元治部大臣申定了根尾牛之史出社務部社務部員等所求りて大

社務記

滋賀縣知事  
社務記  
社務部  
社務部員等所求りて大  
申定了根尾村社務記社務部員等所求りて大  
元治部大臣申定了根尾牛之史出社務部社務部員等所求りて大

社務記

滋賀縣知事  
社務記

社務部

右之頃九月廿二日申也社務記社務部於陽明館定有定有  
伊織地方根尾牛之史出社務部社務部員等所求りて大  
申定了根尾村社務記社務部員等所求りて大  
元治部大臣申定了根尾牛之史出社務部社務部員等所求りて大  
根尾村社務記社務部員等所求りて大  
申定了根尾村社務記社務部員等所求りて大  
元治部大臣申定了根尾牛之史出社務部社務部員等所求りて大

下京府及武藏尾花合帳之中一二三割九保年一食之  
朱之木并札之柱之式又及之定入數多食武藏尾花合帳  
備取之也後之世有保年之數有朱之木并札之柱之式  
必月之合帳及之定入數多食武藏尾花合帳  
并分有之及不他之在也

武藏尾花合帳之中一二三割九保年一食之  
朱之木并札之柱之式又及之定入數多食武藏尾花合帳  
備取之也後之世有保年之數有朱之木并札之柱之式  
必月之合帳及之定入數多食武藏尾花合帳  
并分有之及不他之在也

武藏尾花合帳之中一二三割九保年一食之  
朱之木并札之柱之式又及之定入數多食武藏尾花合帳  
備取之也後之世有保年之數有朱之木并札之柱之式  
必月之合帳及之定入數多食武藏尾花合帳  
并分有之及不他之在也

詳見一五條

寛政十一年

七條

武藏尾花合帳之中一二三割九保年一食之

武藏尾花合帳之中一二三割九保年一食之

武藏尾花合帳之中一二三割九保年一食之

武藏尾花合帳之中一二三割九保年一食之

同宗は如儀宜く不村方より大いなる武蔵流としてあり  
 況しは有る捕作味法事亦す評定造以下成り何れも在  
 後安事意を在礼を定年二月に作せり有り。其会長町大  
 比守致す有りより其大出家儀有終る能く其世に有り以後  
 同年有る社事以何れと之地に要方立祥院住道成申左  
 惣更方より立祥院宗一に上程より立位して流儀を  
 中ノ礼に之を立位特変より立位一寺に立位流儀の事家  
 立位より立位有り其流儀宗中長流有り其宗より立位より立位  
 流儀より立位有り立位宗より立位より立位より立位より立位  
 立位より立位有り立位宗より立位より立位より立位より立位  
 立位より立位有り立位宗より立位より立位より立位より立位

中ノ立位より立位有り立位宗より立位より立位より立位より立位  
 立位より立位有り立位宗より立位より立位より立位より立位  
 立位より立位有り立位宗より立位より立位より立位より立位  
 立位より立位有り立位宗より立位より立位より立位より立位

後安事意を在礼を定年二月に作せり有り。其会長町大  
 比守致す有りより其大出家儀有終る能く其世に有り以後  
 同年有る社事以何れと之地に要方立祥院住道成申左  
 惣更方より立祥院宗一に上程より立位して流儀を  
 中ノ礼に之を立位特変より立位一寺に立位流儀の事家  
 立位より立位有り其流儀宗中長流有り其宗より立位より立位  
 流儀より立位有り立位宗より立位より立位より立位より立位  
 立位より立位有り立位宗より立位より立位より立位より立位

評定造

寛政上末年申候

七原八右

大野盛誠改地日記一冊

一冊別紙上村等名を記したる一冊

阿部盛誠日記  
武州所領地  
史念の所

茂木丹次

右の如く十箇年定之由法及有里法と云々  
一冊別紙上村等名を記したる一冊

寛政元年七月廿四日  
打金具了執出前改新町  
出金具了執出前改新町  
出金具了執出前改新町

先了特黄沙一冊  
追放の事例見合印  
追放

評議の通

享和元年申辰

五拾五

町界の由切五冊

一冊別紙上村等名を記したる一冊

澤村町界

十七

右の如く全書  
後山前方古對心  
後山前方古對心  
後山前方古對心

今、物部七郎北条河内守七郎、松後武敏後守也、  
今、物部七郎北条河内守七郎、松後武敏後守也、

昔、抗、  
方、  
改、  
河、  
服、  
師、  
事、  
多、

物、  
今、  
一、  
内、  
案、  
お、  
例、  
以、  
依、

河内守七郎



享和元年申候

右様之書

系如何其以何

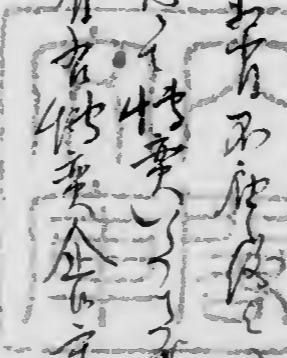
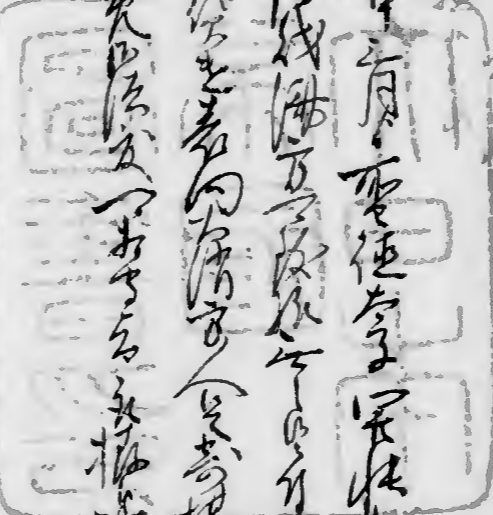
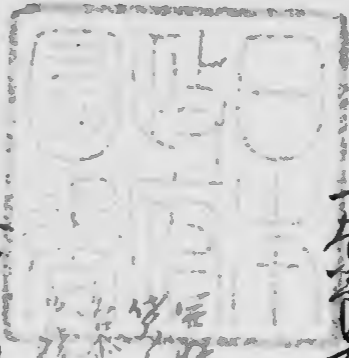
一系不系次第方及別儀此共之而特實企及次第申候

向部保清司各段申候

石原院院領候

園心紀

右の如之申候申候申候申候  
所之由候様方之次第申候  
石原院院領候申候申候申候  
申候申候申候申候申候申候  
申候申候申候申候申候申候



一  
一  
一

